
2度目の人生

you

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2 度目の人生

【Nコード】

N4030Z

【作者名】

you

【あらすじ】

猫を庇って死んだ主人公が転生先で色々するはなしです。

まじっすか！

どこだよここ・・・
目を開けると真っ白い空間にいた。

『お！目が覚めたか。』
そして俺の目の前にはよぼよぼな爺さんがいた。
なんで爺さんなんだよ・・・はあ、こついつ時は綺麗なお姉さんと
か幼女とかじゃねえの？

『悪かったなよぼよぼな爺さんで』
あれ？声にだしてたっけ

『まあ、わしは神だから心を読むことぐらい簡単じゃ』
まじっすか！

「んで、何で俺はここにいるんだ？」
「それはお前が死んでしまったからじゃ」

え？

「嘘だ！」

『本当じゃ・・・お前はトラックにひかれそうな猫をたすけて死んだのだ・・・』

はあ、まあいいんだけどさ・・・まだやりたいこと1個だけあった
な・・・

『やりたい事とは？』

「プリンに醤油かけて食ってみたかった・・・」

『・・・別にプリンに醤油かけたってプリンと醤油の味しかないぞ』

え？まじで？ならいいや。

つーか何で俺はこんなとこにいるんだ？

『そうじゃった・・・お前が助けた猫はわしのペットでな、たすけてくれたお詫びとして転生してもらおうとおもってだな。』

転生するのはいいがどういう世界なんだ？

『魔法のある世界じゃ』

よっしやあああああ！

めっちゃ面白そうやん！

『んで、転生する前に3つぐらい願いを叶えてやろうと思ってだな・・・ねがいはなんだ？』

願いか・・・

1つ目は身体能力をかなりあげてくれ

2つ目は魔力無限

3つ目は・・・あっちの世界に剣ってあるのか？

『もちろんあるぞ』

じゃあ3つ目は俺が刀になれと思ったら刀になれる木刀で・・・あ、絶対に折れないようにしてくれ。

『わかった・・・では転生させるぞ』

なんか・・・急に・・・ねむ・・・く・・・なって・・・き・・・た。

入学式（前書き）

生暖かい目でみてください

入学式

いやあ、無事に転生できたのは良かったんだけどさ・・・
赤ん坊からってどうなのよ・・・ちなみに今は1歳ね。

「アルス〜オムツ取り替えましょうね〜」

2時間に1回オムツの取替にくるって・・・

「あうあああああ（やめて、俺のライフはもう0だ！）」

「これでよし！」

もうお嬢にいけない・・・言い忘れてたけど俺の名前はアルスⅡグ
ランドっていうんだ

そっぴや俺の絶対に折れない刀ってどこにあるんだろ・・・まあ今
度でも探せばいいか。

はあ時間ってこんなに経つのがおそいんだな・・・

—————
—————
—————
そして14年の月日がたった

「アルスおきなさ〜い！今日は入学式でしょ。」

「へ〜い」

今日は有名なオアース魔法学園の入学式だ！

あ、ちゃんと受験はしたぜ・・・ぎりぎり合格だったんだ・・・あ
と1点でも足りなかったら落ちていた。

「早く朝ごはん食べていきなさい、遅刻するわよ。」
うお、もうこんな時間か早く行かないと。

「いつてきまゝす」

そうそう、この14年の間に何を学んだかというとな、この世界の事と文字、魔法、能力

この世界のことは・・・魔物がいる！詳しくはめんどくさいので今度話す。

文字覚えるのは大変だったわ・・・地球の文字を知ってるからそれに慣れてしまつて何回もまちがえたわ・・・覚えるのに10年かかったわ・・・

魔法には火、水、風、土、雷、聖、闇という属性があり、1人2つぐらい属性があるらしんだ・・・たまに3つ使いこなせる人もいるみたいだがな。聖と闇は特別みたいだ・・・くわしいことはわからない。

それと刀はまだ見つかっていない。どこにあんだよ！

能力のことはだな、人一人には生まれつき能力が2つあってだな・・・1歳にはその能力のことについてわかるらしんだが・・・俺の能力はまだわからない。なぜ？

そんなこんなで30分後

よし、ついた。ここがオアーズ魔法学園か・・・まあ、来るのは2度目だけだね！

ん？校門に新入生は体育館にお集まりくださいってという紙が貼つてある。

というわけで体育館につきました

校長先生の話がはじまった

30分後

長いっ！

まあ、校長先生の話ってどの学校もながいよな・・・はあ、なんかイライラしてきた・・・

さらに30分後

こんなに長く話してもまともいきいてるやつなんているわけねえだろ！生徒のこと考えるよハゲが！

1時間後

「これで校長先生のお話を終わります。」
「やっと終わった・・・長い戦いだっただ。（睡魔との戦い）」

今俺は自分のクラスに向かっている。

この学園には、AとEの5クラスあって入試の点数が高い人順にAとEに入るそうだ・・・ちなみに俺は最下位だからEクラスだ・・・実技さえあれば・・・

クラスに入って自分の席に座り（窓際の一番後ろ）ぼーっとしていると、いろんなところから校長の悪口が聞こえる「あのハゲが」とか「話し長すぎだろあの短足」とか「死ねくそじじい」とか「馬みたいな顔しやがってとか」とか「胴長が！」とか・・・まあ、あんだけ長く話してれば嫌われるだろうな。

ガラッ

「席につけー」

女の先生が入ってきた・・・先生ちっちえーな・・・バゴッ！・・・

よし、目覚ましもセットだし、寝るか

入学式（後書き）

アドバイスをください

魔力検査(前書き)

駄文

魔力検査

「ん・・・朝か・・・」

7時半か・・・学校始まるのは8時半だし・・・2度寝するか・・・

「はやくついてこいやー!」

「イヤ!」

廊下からめっちゃでかい男の声が聞こえる・・・うるせえ・・・どっかに耳栓があつたはず・・・

あつたあつた・・・これでよし

「はやくこいつつてんだろ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「たすけてー!!!!!!!!!!」

イライラしてきた・・・

「でけえ声だすな!」

バンツ

「うるせえ~~~~~!!」

俺はドアを蹴り開け男に向かって叫んだ。

「耳栓してんのにうるせえってど言つことよ!二度寝できねえじゃねえか!」

・・・どうやら女を自分の部屋に連れていこうとしていたみたいだな。

「どうみてもお前が悪いようにしか見えないので・・・」
ドガッ

「ぐえ・・・」

うっん・・・弱い・・・

「あ、ありがとっごいします」

これは・・・部屋に連れ込もうとするのもわかる。

「どういたしまして・・・俺はアルス・・・お前は？」

「私はアルス＝ミザールといいます」

「よろしく！」

「よろしく／＼／」

アルス・・・アルス・・・あ！

「お前、一番最初に自己紹介した？」

「はい！あなたは最後に自己紹介をした人ですよね？」

おお！・・・覚えていてくれたか！

こんな可愛い子に覚えてもらえるなんて感激だ！

ちなみにアリアの容姿はアマ ミの 咲に似ている。

「もうそろそろ時間ですし、いっしょに学校行きませんか？」

「よろこんで！」

5分後

俺は自分の席で授業始まるまで寝ること・・・

ガラッ

「欠席はいませんねー・・・いまから皆さんの魔力量を測りに行きますので体育館に来て

ください」

寝れなかった・・・

ドンッ

誰かがぶつかってきた。

「お！スマン！」

「こちらこそ・・・」

「お前って最後に自己紹介した「あの」アルス？」
ん？あの？

「そっだが・・・」「あの」？

「ああ！自己紹介で唯一つまんねえ自己紹介した「あの」アルス！」
つまなくて悪かったな・・・

「それでもって・・・女子からかなりモテる「あの」アルス！」

「はあ、自己紹介に面白さ求めてどうすんだよ・・・」

「え？ああそうなんだ・・・」

聞いてなかった・・・

「俺はアレックス」メラクよろしく！自己紹介で話したと思うが趣味は美人探しだ！」

まじか・・・

「・・・よろしく」

「早く体育館いこうぜ！」

「おお・・・」

体育館

「全員揃いましたねー・・・では出席番号順に魔力を測ってください。」

ちなみに自分がどの属性かもわかりますよ。」

俺は出席番号は2番だ。一番はアリスだ。3番はアレックスだ

「このボールに触ってください。このガラスのボールはその人の属性に反応して色を変えます。」

火だったら赤

水だったら青

風だったら緑

土だったら茶

雷だったら黄

聖だったら白

闇だったら黒となります」

アリスがボールに触れた・・・ボールが赤と青に変化した。
てことは火と水の属性か。

次は俺だな・・・俺はボールに触れた。

ボールがいろんな色に変化した・・・そして

ドガアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

みんながありえないって目で見てくる。

そりやそうだ・・・俺、魔力無限だし・・・

「ええと・・・次アレックス君」

「お前すげえな！全部の色に変化したし・・・しかもボールを壊す
なんてすげえ！」

「せんきゅ！」

そして魔力測定が終わった。

ちなみにアレックスの属性は風と土だ！

「次の時間は・・・身体能力と自分の能力、どんな攻撃魔法が得意
か見ますのでグラウンドに集まってください」

身体能力と自分の脳力か・・・

身体能力は別にいいとして・・・はあ、自分の脳力か・・・まだ1

個も見つかってないのに・・・

俺はグラウンドに向かう途中いろんな人に「何でそんなに魔力が高
いんだ！」とか「何で全属性がつかえるの？」とか・・・いろいろ
聞かれてしまい授業に遅刻してしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4030z/>

2度目の人生

2011年12月15日01時47分発行